

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		第九公演			所管	文化産業観光部 文化振興課			
事務事業の概要	事業目的	台東第九公演の開催を通じて、区民をはじめ多くの方が芸術に触れる機会を創出することにより、台東区の芸術・文化の発展・向上を図る。				事業の開始・終了年度			
						[事業開始] 昭和 5 6 年度			
						[終了予定] - 年度			
	[R7年度] 事業内容	台東第九公演を主催する台東第九公演実行委員会(台東区・台東区民合唱団・東京藝術大学で構成)に対し補助金を交付し、ベートーヴェン交響曲第9番の公演を実施する。台東第九公演実行委員会では、一般公募による合唱参加者の募集、合唱の練習場所や公演会場の確保、公演のための広報活動及びチケット販売等を行う。 ・名称:第42回「台東第九公演」下町で第九 ・開催日:令和7年12月7日(日) ・会場:東京藝術大学奏楽堂 ・入場者数:982名 ・チケット販売枚数:1,067枚							
	根拠法令等	「台東第九公演」事業費補助金交付要綱							
委託の有無	なし		補助金の有無		なし				
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率		
	活動指標	助成件数	件	1	1	1	1	1	100.0%
		合唱練習回数(練習会場提供回数)	回	14	16	14	6	6	100.0%
	成果指標	合唱参加人数	人	200	189	198	218	200	109.0%
		公演充席率(入場者/客席数)	%	90.0	94.0	91.6	92.0	90.0	102.2%
	決算額 (単位:千円)				R5年度	R6年度	R7年度		
					2,200	2,200	2,200		
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			3,850	3,912	8,737		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			0	0	0		
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			2,200	2,200	2,200		
		総経費			6,050	6,112	10,937		
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0		
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0		
		一般財源(区負担額)			6,050	6,112	10,937		
	実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由					
必要性		3	合唱参加者の募集では定員を超える応募があり、公演チケットは完売となるなど第九公演のニーズは高い。						
効率性		3	東京藝術大学との共催により、会場を無償で使用でき、合唱練習場所も区立施設や放課後の区内小学校体育館を活用することで、支出の抑制ができています。また、チケット販売により収入確保に努めている。						
手段の適切性		4	区からの補助金の額は、総事業費の半分に抑えられている。残りは事業収入でまかなっており、最小の経費で事業を行っている。また、区民合唱団は参加者募集や合同練習、東京藝術大学は指揮者・オーケストラや公演会場手配等、区は調整やチケット販売・PR等と適切に役割分担が行われており、適正に執行している。						
目的達成度		4	令和7年度の合唱参加人数は218人であった。また、公演充席率については92.0%(客席数1,067席に対して入場者数982名)とともに安定して高い水準を保っている。						
総合評価	現在の課題	昭和56年から42回に渡り継続している事業として、下町の冬の風物詩として定着しており、区民の関心も高い。しかし、若年層の合唱参加者・入場者が少ない状況が課題となっている。区立生涯学習センターミレニアムホールの改修工事の影響で、令和7年度の合唱練習14回のうち、区から会場を提供したのは6回のみであり、ほか8回は荒川区民会館を活用した。練習会場の代替場所や、本公演の会場が使用不可となった時の代替場所の検討が必要である。							
	今後の方向性	今後も、より幅広い世代に参加・来場していただけるよう、引き続きホームページやX・LINE等のSNSを活用してPRに努めていくとともに、事業規模を維持しつつも、今後の代替会場についても検討を進める。							
		評価結果 維持							

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		台東区芸術文化財団運営					所管	文化産業観光部 文化振興課		
事務事業の概要	事業目的	公益財団法人台東区芸術文化財団の管理運営費や自主事業経費に対して補助を行うことで、財団の健全な運営及び発展を図り、区民の文化・スポーツ活動を推進する。					事業の開始・終了年度			
							[事業開始] 平成 2 3 年度			
							[終了予定] - 年度			
	[R7年度]事業内容	・公益財団法人台東区芸術文化財団への補助金交付 管理運営費及び自主事業経費に対する補助 【公益財団法人台東区芸術文化財団事務局が実施する主な自主事業】 ・区立文化施設における企画展やコンサート等 ・台東薪能 ・浅草芸能大賞 など								
	根拠法令等	東京都台東区一般財団法人に対する助成等に関する条例								
委託の有無	全部委託(指定管理)			補助金の有無		なし				
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	助成件数	件	1	1	1	1	1	100.0%	
	成果指標	自主事業実施数	件	34	29	30	32	32	100.0%	
	決算額（単位:千円）				R5年度	R6年度	R7年度			
					272,875	302,121	331,773			
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			6,416	5,868	6,310			
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			4,436	4,157	3,735			
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			268,439	297,964	328,038			
		総経費			279,291	307,989	338,083			
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0			
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0			
		一般財源(区負担額)			279,291	307,989	338,083			
	実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
必要性		3	区民の文化・スポーツ活動を推進するにあたっては、財団の創意工夫と柔軟性を活かしながら、事業を効果的かつ効率的に行っていく必要がある。							
効率性		3	財団の体制や事業内容に応じて、適正に補助金を交付している。一方で、財務システムの違い等により、事務の負担が大きいことが課題となっている。							
手段の適切性		3	財団において、企画展やコンサート、区民スポーツ教室などの芸術文化やスポーツに関する様々な自主事業が実施されている。							
目的達成度		4	安定して自主事業が行われており、区民の文化・スポーツ活動の推進が図られている。							
総合評価	現在の課題	これまでも、財団の運営において、経費削減や自主財源の確保に努めてきているが、より一層の収入確保策を検討する必要がある。また、各文化施設の特色を活かした企画展等の自主事業を展開することで、更なる来館者増の方策を検討する必要がある。						評価結果		
	今後の方向性	事業内容の充実や積極的なPR等により来館者増を図るとともに、各文化施設の特色にあったグッズの開発やコンサート事業等を実施することで、自主財源の確保に努めていく。また、業務の流れを改めて整理することなどを通じ、効率的な事務執行の方法を検討していく。						維持		

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		上野の山文化ゾーンフェスティバル					所管	文化産業観光部 文化振興課		
事務事業の概要	事業目的	上野の山文化ゾーン連絡協議会事務局として、連絡協議会及び担当者会議を開催するとともに、上野の山の各文化施設による共同イベントを実施し、日本を代表する文化・芸術の集積地である上野の山の魅力を広く区内外にPRする。					事業の開始・終了年度			
	[事業開始] 平成 4 年度									
	[終了予定] - 年度									
	[R7年度] 事業内容	1. 上野の山文化ゾーン会議の開催 連絡協議会(令和7年5月20日・8月21日)・担当者会議(令和7年6月26日・12月12日) 2. 上野の山文化ゾーンパンフレットの発行 ・年間パンフレット(令和8年3月発行)／発行部数:34,500部 ・子供向けパンフレット(令和8年3月発行)／発行部数:9000部 3. 上野の山文化ゾーンフェスティバルの開催 ・特別企画「東叡山寛永寺創建四百周年記念イベント」／期間:令和7年10月18日・19日／参加者数:635人 ・上野の山散策ガイドツアー／期間:令和7年10月～11月／参加者数:96名 ・講演会シリーズ／期間:令和7年9月～11月／参加者数:1,877人								
根拠法令等	上野の山文化ゾーン連絡協議会設立規約									
委託の有無	なし			補助金の有無		なし				
事務事業の実績	種別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	パンフレット・ポスター作成部数(全4種類)	部	56,000	57,320	54,300	55,780	55,000	101.4%	
		講演会シリーズ 講演実施回数	回	18.0	19	21	17	17	100.0%	
	成果指標	講演会シリーズ 参加者数	人	1,900	2,114	2,271	1,877	1,800	104.3%	
		講演会シリーズ アンケート満足度	%	85.0	78.8	86.5	88.1	85.0	103.6%	
	決算額 (単位:千円)				R5年度		R6年度		R7年度	
					2,979		3,322		11,986	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			7,699		6,846		11,650	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			2,979		3,323		11,904	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			0		0		83	
		総経費			10,678		10,169		23,637	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0		0		0	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			316		430		0	
		一般財源(区負担額)			10,362		9,739		23,637	
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	上野の山は、多様な文化施設、寺社、史跡、名所が揃っており、国際的にみても特色ある貴重な文化資源である。事業内容の異なる各施設の連携に寄与し、上野の山全体を芸術・文化の拠点としての発展に努めることは、区の文化振興にとって不可欠である。							
	効率性	3	会議の出欠確認及びパンフレット記事の取りまとめ等について、加盟施設数が多いことから、LoGoフォーム等を活用することで、事務の効率化を図っている。							
	手段の適切性	4	連絡協議会や担当者会議の開催等を通じ、上野の山の各文化施設と相互に連携を図りながら、各施設の情報を集約し、発信することにより、上野の山全体における来訪者数の増加及び回遊性の向上に寄与している。							
	目的達成度	4	参加者のアンケート満足度は高い水準を保って推移している。今後もアンケートで寄せられた意見を各施設にフィードバックするなどして、参加者の満足度向上及び事業内容の改善につなげていく。							
総合評価	現在の課題	加盟施設との連携及び情報共有を一層強化し、各施設の特色や取り組みを相互に活かしながら、上野の山文化ゾーン全体の活性化につなげていく必要がある。						評価結果		
	今後の方向性	これまで「上野恩賜公園開園150周年」や「東叡山寛永寺創建400周年」等の機を捉えて、様々な連携を図ってきた。今後も、加盟施設との連携をより強化し、上野の山のさらなる魅力を広くPRする。						維持		

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		流鏑馬					所管	文化産業観光部		
								観光課		
事務事業の概要	事業目的	観光事業としての流鏑馬を開催し、浅草地区の観光振興と活性化を図る。					事業の開始・終了年度			
							[事業開始] 昭和 5 8 年度			
							[終了予定] - 年度			
	[R7年度] 事業内容	「流鏑馬」「草鹿」の開催 開催場所:流鏑馬 台東区立隅田公園内特設会場(馬場)、草鹿 山谷堀広場 開催日程:4月19日(土)草鹿 11時45分～12時45分、流鏑馬 13時～14時30分 流鏑馬の執行委託先:小笠原流弓馬術礼法宗家 共催:台東区弓道連盟、浅草観光連盟								
	根拠法令等	なし								
委託の有無	一部委託			補助金の有無		なし				
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	開催回数	回	1	1	1	1	1	100.0%	
		ポスター等広告数	件	8	8	8	8	8	100.0%	
	成果指標	観覧者数	人	5,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100.0%	
	決算額（単位:千円）				R5年度		R6年度		R7年度	
					22,416		22,392		25,442	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			5,988		8,311		6,399	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			22,416		22,392		25,442	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			0		0		0	
		総経費			28,404		30,703		31,841	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			4,627		2,486		2,912	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			140		451		140	
		一般財源(区負担額)			23,637		27,766		28,789	
	実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
必要性		3	歴史のある伝統行事や寺社仏閣、名所旧跡の数々が本区の魅力であり、文化である中で、江戸時代から行われてきた流鏑馬を実施することは、文化の継承や地域ブランドの強化の観点から必要である。							
効率性		3	人件費・物価高に伴いコストは上昇しつつあるものの、職員による運営や有料観覧席の設置による収入確保を行うなど、効率的な事業推進を図っている。							
手段の適切性		4	関連団体、部署との連携、オンラインでのチケット販売、お土産の簡素化などを実施し、適切な手段・手法により事業を運営している。							
目的達成度		4	事業は概ね良好に進捗している。							
総合評価	現在の課題	特段大きな課題はない。						評価結果		
	今後の方向性	事業収支の見直しや熱中症対策、事業オペレーションの改善等の見直しを行ってきた。今後も引き続き、様々な観点から事業手法等を精査し実施していく。						維持		

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		上野浮世絵行燈					所管	文化産業観光部		
								観光課		
事務事業の概要	事業目的	上野恩賜公園内の園路に浮世絵行燈を設置することによって、上野恩賜公園を訪れた観光客等を上野のまちや商店街へ誘導し、回遊性の向上を図る。 また、東京国立博物館等のライトアップを行い、旅行者の増大とまちの活性化を図る。					事業の開始・終了年度			
							[事業開始] 平成19年度			
							[終了予定] - 年度			
	[R7年度]事業内容	浮世絵行燈の設置 設置場所: 上野恩賜公園内 さくら通り～袴腰広場北側 設置期間: 令和7年10月18(土)～令和8年2月26日(木) 点灯時間: 午後4時30分～午後9時 設置数: ①浮世絵行燈 約150基 ②大型行燈 3基 周知用チラシ: 2,500枚作成								
根拠法令等	なし									
委託の有無	全部委託				補助金の有無		なし			
事務事業の実績	種別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績			
	活動指標	浮世絵行燈設置日数	日	132	134	132	132	132	100.0%	
		浮世絵行燈設置数	基	92	203	203	153	153	100.0%	
	成果指標									
	決算額 (単位:千円)				R5年度		R6年度		R7年度	
					2,496		2,535		3,334	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			1,711		1,956		2,427	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			2,484		2,522		3,322	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			13		13		13	
		総経費			4,208		4,491		5,762	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0		0		0	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0	
		一般財源(区負担額)			4,208		4,491		5,762	
	実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
必要性		3	上野地域の活性化を図るうえで、上野のまちや商店街に観光客等を誘導することは引き続き必要である。							
効率性		3	事業の開始当初から使用している行燈を適宜修繕して利用することで、コストを維持することができている。							
手段の適切性		3	上野周辺地域を題材とした浮世絵行燈を設置することは事業効果を得る手段として適切である。							
目的達成度		4	例年同程度の浮世絵行燈を設置することで、特に夜間において上野恩賜公園から上野のまちへの回遊性を高めることができている。							
総合評価	現在の課題	令和9年度または10年度に、東京都の「夜間景観整備事業」で上野恩賜公園内さくら通りに行燈型照明を設置する予定であり、都との連携が必要となる。また、現在区が管理を行っている東京国立博物館敷地内の水銀ランプについて、水銀ランプの製造終了に伴い、今後LED照明器具への交換が必要となる。							評価結果	
	今後の方向性	都の「夜間景観整備事業」実施開始に合わせ、区の行灯設置台数を減らす。余剰の行灯は地域イベントへの貸出、破損時の取り換え等に活用していく。水銀ランプについては、今後の合理的な管理方法について東京国立博物館と整理・協議を行う。							縮小	

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		隅田川花火大会					所管	文化産業観光部		
								観光課		
事務事業の概要	事業目的	伝統の両国花火大会を継承する行事として、多くの方々に親しまれている隅田川花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供しようとするものである。					事業の開始・終了年度			
							[事業開始] 昭和 5 3 年度			
							[終了予定] - 年度			
	[R7年度]事業内容	・名称: 令和7年(第48回)隅田川花火大会 ・時期: 令和7年7月26日(土) ・対象: 都、区民を含む観光客 ・内容: 都・5区(台東区・墨田区・中央区・江東区・荒川区)合同の実行委員会により開催 打上玉数 約20,000発, 実施会場 第一会場 桜橋下流～言問橋上流 第二会場 駒形橋下流～厩橋上流 ※第一会場では、両国花火ゆかりの花火業者等による花火コンクールを実施								
根拠法令等	隅田川花火大会事業費台東区補助金交付要綱									
委託の有無	なし				補助金の有無	なし				
事務事業の実績	種別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	花火打上数	発	20,000	20,157	18,377	20,157	20,000	100.8%	
	成果指標	観客数	人	950,000	1,035,000	910,000	930,000	950,000	97.9%	
	決算額 (単位:千円)				R5年度		R6年度		R7年度	
					46,884		60,125		65,237	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			21,387		26,399		27,008	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			429		459		414	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			46,455		59,667		64,823	
		総経費			68,271		86,525		92,245	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0		0		0	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0	
		一般財源(区負担額)			68,271		86,525		92,245	
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	隅田川花火大会は享保8年(1733年)に始まった両国花火を受け継ぐ伝統ある花火大会で、夏の風物詩として広く認知されている、区を代表するイベントである。例年100万人近くの集客により一定の経済波及効果があると考えられる。							
	効率性	2	近年、人件費や物価の高騰により、必要経費が増大しており、補助金額が年々増加している。実行委員会に対して自主財源の確保を求めていく必要がある。							
	手段の適切性	3	大会運営は都と5区(台東区・墨田区・中央区・江東区・荒川区)合同の実行委員会により行われており、実行委員会に対し補助金を支出することは適切である。							
	目的達成度	3	例年100万人近く集まる観客動員があり、浅草地域を中心とした広い地域で経済活性化に寄与している。							
総合評価	現在の課題	隅田川花火大会は、都・5区からの補助金と民間企業や個人から(市民協賛席)の協賛金による収入で運営している。近年、人件費や物価の高騰により、大会運営に必要な経費が増大しており、実行委員会に対する補助金が年々増加している。						評価結果		
	今後の方向性	実行委員会に対して、新規で民間企業へ協賛募集の営業を行うことや市民協賛席の価格を見直すなどの自主財源を増やしていく方策の改善を求めていくことにより、補助金の負担割合を減らしていく。						維持		

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		観光団体等観光振興事業助成					所管	文化産業観光部	
								観光課	
事務事業の概要	事業目的	観光関連団体が行う観光振興事業に係る経費の一部を助成することにより、観光客の誘客を図り、観光振興及び地域経済の活性化に寄与する。					事業の開始・終了年度		
							[事業開始] 平成 2 5 年度		
							[終了予定] - 年度		
	[R7年度]事業内容	内 容：観光関連団体が行う観光振興事業に係る経費の一部を助成する 対象事業：うえの桜まつり、うえの夏まつり、Peace of Light、クリスマスアドベント、浅草サンバカーニバル、浅草お座敷おどり、奥浅草写真展及び写真コンテスト、奥浅草観光PR事業、下谷地区観光PR事業(計9件)							
根拠法令等	台東区観光団体等観光振興事業助成金交付要綱 東京都台東区補助金等交付規則								
委託の有無	なし			補助金の有無		なし			
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率		
	活動指標	助成件数	件	10	9	11	9	10	90.0%
	成果指標	実施事業数	件	10	9	11	9	10	90.0%
	決算額（単位：千円）				R5年度	R6年度	R7年度		
					29,404	50,296	54,285		
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト(人件費など)			10,266	14,669	13,106		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			0	0	0		
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			29,404	50,296	54,285		
		総経費			39,670	64,965	67,391		
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0		
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0		
		一般財源(区負担額)			39,670	64,965	67,391		
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	国内外の観光客数が増加している中、さらなる観光客の誘致、地域経済の活性化のため、観光振興事業の充実が必要である。						
	効率性	4	地域での長年の経験や専門的知識を有する団体が運営する事業に対し、その事業経費の全額を補助するのではなく、一部を補助することによって団体の自主性を尊重しながら協賛金等事業収入の確保などの自助努力を促しており、最小限の経費で支援できている。						
	手段の適切性	3	台東区観光団体等観光振興事業助成金交付要綱に基づき、助成金を適切に支出している。						
	目的達成度	3	観光振興事業への助成により、各事業の運営・実施に大きく貢献している。						
総合評価	現在の課題	観光振興事業開催団体において、物価高騰への対応や、地域の回遊性向上に向けた取り組み、イベント内容の変更、新しい客層へのアプローチを検討していく必要がある。						評価結果	
	今後の方向性	各団体が実施する事業において、内容の改善や多様なアプローチを通じて、観光振興および地域経済の活性化に寄与できるよう、事業実施に関する他の補助制度の情報提供や、観光振興に必要な助言を行うとともに、適正な助成を行う。						維持	

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		観光関連産業団体助成					所管	文化産業観光部		
								観光課		
事務事業の概要	事業目的	国内外の観光客の増加に伴い、観光関連産業団体の役割は年々大きなものとなっている。国内外へのPR活動や観光事業の実施・協力、リピーターを増やす活動をしている団体に対して助成することにより、観光振興及び地域経済の活性化に寄与する。					事業の開始・終了年度			
							[事業開始] 平成 2 5 年度			
							[終了予定] - 年度			
	[R7年度] 事業内容	事業内容:観光関連産業団体の運営に係る経費のうち、助成対象経費の2分の1を上限として助成する 対象団体:台東区観光みやげ品協会、台東区ホテル旅館協会								
根拠法令等	台東区観光関連産業団体助成金交付要綱 東京都台東区補助金等交付規則									
委託の有無	なし				補助金の有無	なし				
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率			
	活動指標	助成件数	件	2	2	2	2	2	100.0%	
	成果指標	みやげ品協会出展イベント件数	件	3	4	3	3	3	100.0%	
	決算額 (単位:千円)				R5年度		R6年度		R7年度	
					737		660		823	
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			3,422		3,423		4,854	
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			0		0		0	
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			737		660		823	
		総経費			4,159		4,083		5,677	
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0		0		0	
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0	
		一般財源(区負担額)			4,159		4,083		5,677	
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	国内外の観光客が増加する中、観光関連産業団体の役割がさらに重要となる。							
	効率性	3	地域での長年の経験や専門性の高い知識を有する団体の活動に対し、その事業経費の全額を補助するのではなく、一部を補助することによって団体の自主性を尊重しながら収入確保などの自助努力を促しており、最小限の経費で支援できている。							
	手段の適切性	3	台東区観光関連産業団体助成金交付要綱に基づき、助成金を適切に支出している。							
	目的達成度	4	適切な助成を行い、各団体の運営に大きく貢献している。							
総合評価	現在の課題	団体に所属する各事業者において人材育成に時間を要し、増加する国内外の観光客のおもてなしに必要な経験とノウハウを持つ人材が不足している。							評価結果	
	今後の方向性	各団体が限られた人的資源のもとで自主的に活動を行い、観光振興および地域経済の活性化に寄与できるよう、区として観光振興に必要な助言を行うとともに、適正な助成を行う。							維持	

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名				たいとう観光大使		所管	文化産業観光部		
							観光課		
事務事業の概要	事業目的	本区にゆかりのある文化人や芸能人を「たいとう観光大使」として任命し、大使の活躍するあらゆる機会を通じて、国際観光都市『台東区』の魅力を区内外に発信してもらうことにより、区のイメージアップを図る。				事業の開始・終了年度			
						[事業開始] 平成 1 8 年度			
						[終了予定] - 年度			
	[R7年度] 事業内容	台東区に縁があり観光振興に資する個人または団体を「たいとう観光大使」として任命し、その活動を支援する。 ・活動内容:名刺として利用できる「観光PRカード」を活用したPRのほか、テレビ出演時や雑誌取材・SNS等で各観光大使の日常的な活動の中で台東区の観光資源、観光スポットのPR ・任期:個人2年間、団体1年間（団体は該当なし）							
	根拠法令等	たいとう観光大使設置要綱							
委託の有無	なし			補助金の有無		なし			
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度 目標値	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績 目標値 達成率		
	活動指標	たいとう観光大使名印刷枚数	枚	3,000	400	0	3,100	3,100	100.0%
	成果指標	たいとう観光大使人数	人	18	21	19	18	18	100.0%
	決算額（単位:千円）				R5年度		R6年度		R7年度
					71		0		263
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			1,283		1,956		971
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			72		0		264
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			0		0		0
		総経費			1,355		1,956		1,235
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0		0		0
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0
		一般財源(区負担額)			1,355		1,956		1,235
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	観光大使には、台東区の魅力を広く国内外にPRしてもらい、区では、観光大使を外部にPRすることにより、相乗効果を期待できる。						
	効率性	3	観光大使は無報酬で活動しており、名刺の支給に係る支援など、必要最低限の経費で効率的に実施している。						
	手段の適切性	3	台東区に縁があり、観光振興に資する対象者を観光大使として任命している。						
	目的達成度	4	たいとう観光大使として、テレビ出演時や雑誌取材・ソーシャルメディア等で、区の観光資源や観光スポットについてPRしてもらうとともに観光客の誘致促進を図っている。						
総合評価	現在の課題	本事業は、平成18年度の事業開始から大使によるマスメディアでの発信や区のイベント出演、PRカードの配布等により区の観光振興に寄与してきたが、著名人に無償で具体的な依頼をしづらい状況がある。また、時代に見合ったソーシャルメディアを活用した区のPRについても積極的に実施している観光大使が少ない状態となっている。						評価結果	
	今後の方向性	課題となっている活用方法やソーシャルメディアでの発信については、区が引き続き、観光大使が無理なく活動できるよう支援を行う。さらに、区のPRについて他課・他事業とも連携し、大使による発信を促すなど、より効果的な活用に取り組んでいく。						維持	

令和8年度 事務事業評価シート

事務事業名		スターの手型顕彰					所管	文化産業観光部	
								観光課	
事務事業の概要	事業目的	大衆芸能の中心地、浅草への観光客の誘致と大衆芸能の発展に貢献した芸能人を後世に伝えることを目的として、スターの手型を浅草公会堂前及びオレンジ通りに設置し、浅草の観光名所として観光振興を図る。					事業の開始・終了年度		
							[事業開始] 昭和 5 4 年度		
							[終了予定] - 年度		
	[R7年度]事業内容	「スターの手型設置要綱」に基づき選考された芸能人等の手型設置及び顕彰式を実施 1. 名 称 令和7年度「スターの手型」顕彰式 2. 実 施 日 令和8年3月14日(土) 3. 会 場 浅草公会堂 4. 内 容 顕彰楯の贈呈、手型新設 5. 被顕彰者 観世 清和、春風亭 一朝、天童 よしみ、野沢 雅子、爆笑問題(田中 裕二、太田 光)							
根拠法令等	スターの手型設置要綱								
委託の有無	一部委託			補助金の有無		なし			
事務事業の実績	種 別	指標の名称	単位	R9年度	R5年度	R6年度	R7年度		
				目標値	実績	実績	実績	目標値	達成率
	活動指標	顕彰式開催回数	回	1	1	1	1	1	100.0%
		年間メディア対応件数(式典当日分を除く)	件	7	2	2	7	2	350.0%
	成果指標	被顕彰者数(累計)	人	369	348	353	359	358	100.3%
		式典報道受付数	件	18	16	18	17	17	100.0%
	決算額 (単位:千円)				R5年度		R6年度		R7年度
					3,801		4,002		4,720
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			3,422		3,911		3,928
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			3,801		4,003		4,721
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			0		0		0
		総経費			7,223		7,914		8,649
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			30		30		30
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0
		一般財源(区負担額)			7,193		7,884		8,619
実績を踏まえた評価	評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	地域イメージの向上や文化観光都市としての魅力強化に加え、芸能文化の継承につながることから、文化振興及び観光振興の両面で必要性を有する。また、近年活躍する芸能人を継続的に顕彰することで、芸能文化を次世代へ継承し、持続的な文化振興につなげることができる。						
	効率性	3	同一箇所に集約設置することで発信力を高めるとともに、地域の理解を得ながら継続実施しており、効率的な事業運営につながっている。						
	手段の適切性	3	芸能人の手型を残すことにより、大衆芸能の中心地であることを視覚的・継続的に発信できている。また、顕彰式典と同時開催する浅草芸能大賞との連携により、観光誘客、地域回遊の促進につながっている。						
	目的達成度	4	式典開催時の報道機関による取材や観光冊子等への掲載も多数実績があり、観光振興に寄与している。						
総合評価	現在の課題	現在、オレンジ通り沿いの花壇上へ手型の設置を行っているが、設置可能箇所が令和8年度分を含め残り5年分で無くなる予定となっている。						評価結果	
	今後の方向性	近年活躍する芸能人の手型を継続的に顕彰することで、次世代の観光客を呼び込む持続可能な地域活性化の実現につながるため、浅草公会堂や地域の関係団体等との設置箇所の検討準備を行っていく。また、パンフレットや手型のデジタル化など、時代に即した取り組みについても研究を進めていく。						維持	